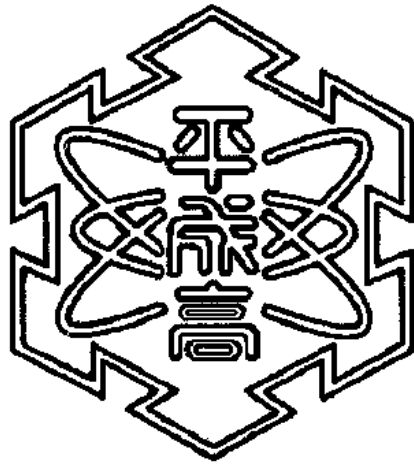


令和2年度

研修集録



秋田県立平成高等学校

〒013-0101
秋田県横手市平鹿町上吉田字角掛60
TEL (0182) 24-1195
FAX (0182) 56-3008

「伏せてあるコップ」

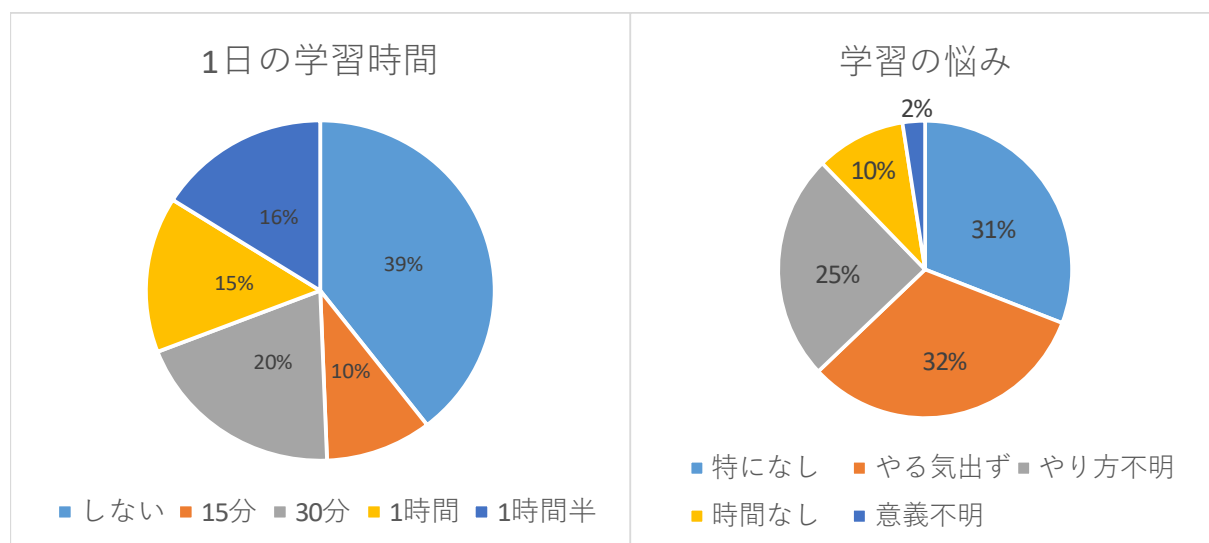
校長 佐藤 久男

我々教員の仕事は、教科指導を通じて教科の力を高めることであるが、それと同時に、何事にも共通する学ぶ姿勢や能力を高めることでもある。コップに水がたまるのを支援するのは比較的やすいが、伏せてあるコップを上を向かせたり、その大きさが広がるようにしむけるのは簡単ではない。本校の1年生の実力診断テストのアンケート結果によると、平日の家庭学習時間は7割の生徒が30分未満である。学習の悩みについても7割の生徒が「やる気が出ない、やり方がわからない、時間がない、意義不明」と回答している。生徒たちが家庭学習をするようになることは、すなわちコップを上に向けさせたり、そのコップを広げさせることではないだろうか。

問題を一度解いただけでは学力は高まらない。できなかった問題を解答や解説を見ながらもう一度解き、自力で解答できるようになるとはじめて学力が高まったことになる。予習でも復習でも、各教科の問題を一度解き、できなかった問題をできるまで練習すれば良い。それを家庭学習でやるようになって欲しい。本校の生徒は部活動に熱心に取り組み、実際に成果を収めている。これも事前に、優勝するにふさわしい準備、努力をしているからこそ得られるものである。暑くても寒くても、眠くても疲れていても、練習には遅れないし、自主トレまでしている。繰り返し繰り返し練習をすることで、できなかったプレイや演奏ができるようになっていく。この成功体験を自身のキャリアを切り開く力につなげさせたい。

伸びしろの多い生徒たちである。職員が組織として家庭学習の習慣化、自己育成力の伸長に取り組み、自己肯定感や自己有用感を高めることで新学習指導要領が目指す新しい学力観の基盤となる、自ら学ぶ態度を涵養していきたい。本稿をぜひご一読頂き、忌憚のない御意見、御指導をお願いする。

《1年生ベネッセ実力診断テストアンケート結果》令和2年10月実施



令和2年度 研修集録 目次

巻頭言 「伏せてあるコップ」 校長 佐藤 久 男

1. 校内研修

- ①各教科の研修記録 1～10
(国・地公・数・理・保体・芸・英・家・商・情)
- ②相互授業参観(9月) 11～13
・開催要項
・相互授業参観のまとめ
- ③公開授業研究会(11月10日)(数学・地歴公民・保健体育) 14～26
・開催要項
・学習指導案 ・授業研究協議会記録

2. 校外研修

A 講座(年次研修)

- ・教職5年研修講座 三浦 史 聖 27～28
・実践的指導力向上研修講座 渡部 陽 子 29～30
・高等学校新任学年主任研修講座 高橋 智 也 31

B 講座

- ・高等学校保健体育科授業の充実 ……中止
・これからの運動部活動の在り方 ……中止

1 校内研修

令和2年度

校内研修記録

(国語科)

研究主題
(主テーマ)

生徒の主体的・協働的な学びを推進するための魅力ある授業づくりの実践。

教科テーマ

言語活動の充実をはかり、国語を的確に表現する力を伸ばすための指導法を工夫する。

I 重点目標

- 1 語句の読み書きと語意を理解する力を高め、その定着をはかる。
- 2 話し合いや発表の場面での適切な表現を身につけさせる。
- 3 文章の構成や展開を意識した表現を身につけさせる。

II 研修計画

- 1 校内漢字力テストで語彙力の充実を図る。漢字検定の受検に際し、目的意識を高めて資格取得を目指す。
- 2 授業内容を精選し目標を簡素化するとともに、必要に応じてグループでの話し合いや発表を組み込み、達成感のある授業を工夫する。
- 3 家庭学習の習慣が身につくように予習項目をはっきりさせるとともに、小テストを定期的実施する。

III 授業改善計画

- 1 前時の内容確認や本時の振り返りに生徒の発言や話し合いを取り入れる。
- 2 暗唱や音読を積極的に実施し、多様な表現法を吸収させる。

IV 実践の成果と今後の課題

- ・問題の内容等が同一でないために単純な評価はできないものの、漢字力テストの平均点は前年度よりも向上している。定着した語彙を活用した学習を行うことが課題である。(IIの1)
- ・話し合いを行う上で、内容の理解度に差があることから、その差を埋めることや、その差を話し合いによって小さくすることが可能な話し合いの方法を習得させることが、今後の課題であると考えます。(IIの2)
- ・学習習慣の定着については、まだまだといった状況であるため、漢字力テストなどの恒常的な取り組みを強化する必要がある(IIの3)

令和2年度

校内研修記録

(地理歴史・公民科)

研究主題
(主テーマ)

生徒の主体的・協働的な学びを推進するための魅力ある授業づくりの実践

教科テーマ

自ら学ぶ意欲を引き出すとともに、広い視野から社会事象をとらえて分析し、思考し、表現する能力・態度を育成する。

I 重点目標

- 1 学習意欲・基礎学力の定着を高めるために、指導方法の工夫や教材の開発などにつとめる。
- 2 各科目相互の指導事項・指導内容の連携を図り、社会に対する多角的視野の育成を目指す。
- 3 多様な進路志望を考慮しつつ、指導内容の精選や適切な指導につとめる。

II 研修計画

- 1 指導方法の研究と授業での実践。
- 2 資料の収集と教材化、および効果的提示方法の研究。
- 3 科内での指導事項・指導内容等の検討。

III 授業改善計画

- 1 発問の工夫（一問一答的な用語確認にとどまらず、「なぜ」を問うことで、考察させ、説明させる）
- 2 視聴覚資料・実物資料・図説資料集などの効果的な活用（資料を活用して考察させる）
- 3 言語活動の充実（自ら進んで探求するように調べ学習や課題学習を実施し、レポート作成やプレゼンテーション等によって成果と課題を発表させる）
- 4 ワークシートやプリントの活用

IV 実践の成果と今後の課題

- ・視聴覚機器や資料となるプリントなどを活用して、効率よく授業展開ができた。
- ・常に「なぜ」を問うことで考えさせる授業ができた。
- ・ワープロソフトを使用してレポート作成をさせた際には、生徒同士が教え合う場面が多く見られた。他の生徒のレポートも見て学べるよう工夫した。作成時間の個人差が大きく、どう調整するかが課題となった。
- ・「話す」言語活動と生徒同士が学び合うような場面をさらに増やしていきたい。

令和2年度

校内研修記録

(数学科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
----------------	---------------------------------------

教科テーマ	基礎学力の定着と積極的な思考を促すための授業づくり
-------	---------------------------

I 重点目標

- 1 基礎学力の定着
- 2 生徒の考えを引き出す発問の工夫
- 3 多様な進路に対応できる学力の育成

II 研修計画

- 1 校内研究授業
- 2 高教研数学会総会授業参観、情報交換会
- 3 数学会研究大会
- 4 他校、他教科の授業研究会や授業研修会に参加する

III 授業改善計画

- 1 授業のはじめに、前時の基本事項を確認する。
演習時間を多く確保するとともに、生徒同士で教えあう機会をつくる。
- 2 発問では、「なぜか」を問い、説明させる。
板書や課題、考査の答案で、過程をきちんと書き数学の用語を用いて説明するよう徹底する。
- 3 進路に応じて課題を与え、繰り返し学習させる。

IV 実践の成果と今後の課題

- 5月21日 秋田県高等学校教育研究会数学会総会
(秋田南高校・・・役員のみで開催)
- 10月29日 秋田県高等学校教育研究会 数学会研究大会
(秋田中央高校・・・三浦先生・浅野先生参加)
- 11月6日 東北地区算数・数学研究(福島)大会・・・中止
- 11月10日 公開授業研究会(授業者 浅野先生)

・定期的に課題を課し、添削指導を行うことにより、学習習慣の定着に努めるとともに、答えだけを述べるのではなく、なぜそう考えたかを発表させることにより、論理的に説明する力の育成を図った。また、朝自習の時間に課題を提出し添削指導を行ったり、長期休業中に補習を行い、基礎学力の定着や問題解決力の向上に努めた。3年生には、授業で就職問題や大学入試問題を繰り返し演習するとともに、個別指導により進路実現に向けた学力向上を図った。

令和2年度

校内研修記録

(理科)

研究主題
(主テーマ)

生徒の主体的・協働的な学びを推進するための
魅力ある授業づくりの実践

教科テーマ

自然事象を科学的な視点で見つめ、論理的に考える態度の育成

I 重点目標

- 1 実験・観察を通して、科学への興味、関心を高める。
- 2 日常生活に関連した教材を用い、主体的に学ぶ力と意欲の育成を図る。
- 3 言語活動を積極的に取り入れた授業を展開することによって積極的な学習態度と表現力を育成する。
- 4 教材を精選し基礎学力の定着を図る。

II 研修計画

- 1 各科目において実験、観察を多くし、発表や説明など言語活動を効果的に取り入れた授業の展開に努める。
- 2 本時のねらいを明示し、日々の出来事や身近な事象を取り上げ、その根拠を探る授業の実践を通して、「わかる授業」の工夫に努める。
- 3 入試問題の傾向や難易度をしっかりと把握し、小テストや単元毎のテストや演習などを通じて生徒へ還元する。

III 授業改善計画

- 1 実際の教材に触れる機会・体験を増やし、観察やデータを元に結論を導き出す手法と思考を時間をかけながらも継続させる。
- 2 上級学校の試験問題の難易度、傾向把握と情報収集によって教材精選を含めた学力養成を図る。
- 3 発表、討論など言語活動をできるだけ取り入れ、積極性の養成も心がける。

IV 実践の成果と今後の課題

- 1 実験・観察の実施が、実習助手不在のため、厳しい状況である。新学習指導要領では、実験・観察を「行い」とあるので、科目の専門性が必要となる。
- 2 専門科目において内容が濃いにもかかわらず、基本単位時数での実施のため、入試対応するのはかなり厳しい。また、数理コースの必要性和人文コースの基礎なしの履修を検討したい。
- 3 グループ毎に討論させるなど、生徒の主体的な行動を重視した授業を実施しているが、教科のみならず普段の生活においても、コミュニケーションの取り方に問題を抱えた生徒が少なからずおり、対策を検討中である。

令和2年度

校内研修記録

(英語科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	教科の知識・技能を活用する学習を充実させ、実践的な能力を伸ばす。

I 重点目標

- 1 家庭学習を習慣づけ、基本事項を定着させる。
- 2 意欲・関心を高め、積極的な学習態度を育成する。
- 3 検定対策・大学受験対策を含め、教材の精選を図り、進路希望に応じた指導を工夫する。
- 4 異文化理解を深め、国際的な感覚・視野をもてるようにする。

II 研修計画

- 1 予習、復習の課題を明確にする。
単語テスト、朝学習、週末課題にしっかりと取り組ませる。
- 2 校内研究授業や校外の研修会に参加し、指導能力向上と授業改善に努める。
- 3 検定対策・大学受験対策の補習や添削指導を行い、主体的な学習習慣の確立につなげる。
- 4 ALTとのチームティーチングを積極的に活用し、英語を聞き、話す実践的能力を育成する。

III 授業改善計画

- 1 単語テスト、小テスト、週末課題等で基礎力や学習習慣を定着させる。
- 2 新学習指導要領に沿った授業方法を研修する機会を多くもち、校外研修の内容や指導技術を科内で共有する。
- 3 各種英検対策や、大学進学希望者向けの補習・個別指導を充実させる。

IV 実践の成果と今後の課題

- 1 予習プリントやノート、考査前の週末課題プリント等課題を明確に指示し、考査毎にチェックして学習状況を確認した。取り組みは生徒によって個人差があるが、概ね予習・復習状況は良好であると感じた。朝学習では、単語・熟語の他単元で扱う文法事項の自学に取り組ませ、授業と連動して行い定着させることができた。
- 2 指導主事学校訪問では、ALTとのTeam Teachingをコミ英語I(1年生)で実施した。指導主事の先生からは、授業におけるALTとJTEとの自然な会話を聞かせる場面の必要性や、ALTが英語で情報を与えた後の生徒とのやりとりの重要性について指導・助言をいただき、我々JTEだけでなく、ALTにとっても実りある研修となった。今後の授業改善に生かしていきたい。
- 3 例年よりも若干英検受検者数が増え、進路を見据えて主体的に英語を学ぼうとする姿勢が見られた。二次試験のインタビューテストの練習を計画通りに実施し、合格に繋げることができた。また、大学や各種学校受験で英語の試験がある生徒に対しては、長文要約や文法問題の添削指導やライティング・スピーキングの個別指導を行い、実践的な英語運用能力を伸ばす取り組みができた。ただ、リスニング対策が十分にできなかったのが反省点である。今後はリスニング練習を英検対策としてだけでなく、普段の授業や長期休業中の補習等にも積極的に取り入れる必要があると感じている。

令和2年度

校内研修記録

(保健体育科)

研究主題
(主テーマ)

生徒の主体的・協働的な学びを推進するための
魅力ある授業づくりの実践

教科テーマ

明るく豊かで、活力ある生活を営む態度を育てる。

I 重点目標

- 1 自己健康管理能力の育成
- 2 健康・安全に留意し、計画的、継続的に運動ができる能力と態度の育成
- 3 運動の楽しさを知り、積極的に運動する態度の育成

II 研修計画

- 1 個々の心身状態に関心を持たせ、体力を維持・向上させるための授業
- 2 規律を重んじ、自発的・積極的・協力的に活動する授業

III 授業改善計画

- 1 運動に関する課題解決能力を育む授業
体育や保健で身に付けた知識を関連づけ、課題解決に向けた活動を取り入れた授業の充実を図る。
- 2 すべての生徒が運動の楽しさや喜びを味わえる選択制授業の充実
一人一人の運動経験や技能の程度などを把握した上で、選択制授業を充実させ、自らの選択に基づいた種目への、責任感を持った積極的な参加と各種目の準備や片付け、運営等の実践と体力の向上を目指す。

IV 実践の成果と今後の課題

○成果…体育では、学年が上がるにつれて男女間の『壁』が少なくなり、自分達で簡易ルール（女子に対するハンディ等）を決めながら積極的・協力的に活動できている。保健においては、授業を通じて少しでも考える時間を多くとれたことが良かった。

○課題…体育の選択制授業に関しては、1つの種目に固執するのではなく、2～3種目を実践するような意欲や挑戦する心を育ていきたい。また、各種目の指導とスキルテスト（評価）の一体化を念頭に置きながら授業を実践しなければならない。保健に関しては、考査問題の内容を今一度精査し、授業同様『考えて記述できる力』を養えるような内容を考えていきたい。

令和2年度

校内研修記録

(芸術科)

研究主題
(主テーマ)

生徒の主体的・協働的な学びを推進するための
魅力ある授業づくりの実践

教科テーマ

基礎的な能力を伸ばし、表現と鑑賞に主体的、協働的に取り組む生徒の育成

I 重点目標

- 1 芸術的な感性を育む教材の精選。
- 2 表現や鑑賞の基礎的な能力を伸ばすための基本指導。
- 3 美に対する感性を高め、芸術の幅広い自主的実践活動を目指す。

II 研修計画

〈音楽〉

- ①実技のための楽典、読譜力の向上
- ②西洋音楽、日本音楽の時代的作曲様式観の理解

〈美術〉

- ①理論と実技の一体化
- ②鑑賞の充実

III 授業改善計画

〈音楽〉

基礎的な楽典学習やリズム打ち、階名唱を通して読譜力の向上を図りながら、表現の能力を伸ばす。また、音楽史や作曲様式の学習と鑑賞を結びつけながら、楽曲の理解や鑑賞の能力の向上を図る。

〈美術〉

表現や鑑賞の実践的活動が主体的に広げられるような視聴覚教材の活用と幅広い分野の鑑賞の充実を図る。

IV 実践の成果と今後の課題

〈音楽〉

音符、休符、音名、など基礎的な楽典を学習し、楽譜の理解を図った。また、クラッピングアンサンブルを通して読譜力の向上を目指すことができた。

音楽史の授業では、西洋音楽史だけでなく、日本音楽史と絡めて、歌唱、舞踊の一部を実践したことでより興味関心をもって鑑賞することができた。今後も、表現と鑑賞を関連を図りながら、授業を進めていきたい。

〈美術〉

鑑賞・表現ともに主体的な活動・交流がみられ、自己肯定感を育むことができた。基礎的な技術・表現・鑑賞の活動で、理解の定着を図ることとともに美への追求へとつなげることができた。今後は視聴覚教材の更なる活用をし、幅広い分野の表現・鑑賞の充実を進めていきたい。

令和2年度

校内研修記録

(家庭科)

研究主題
(主テーマ)

生徒の主体的・協働的な学びを推進するための
魅力ある授業づくりの実践

教科テーマ

家庭生活に必要な基礎的知識・技術を身につけさせ、生活の充実向上を図ろうとする能力と態度を育てる。

I 重点目標

- 1 生活の多様化や生徒の実態に即した指導内容を工夫し、学習意欲を高める。
- 2 基本的な知識・技術の定着を図り、成就感を得られるような指導を工夫する。

II 研修計画

- 1 進路や生徒の実態に即した授業内容の精選。
- 2 様々な体験実習やグループ活動などにより、発見や気づきがある授業の工夫。

III 授業改善計画

- 1 挨拶、返事、授業態度や提出物などにおいて、社会生活を意識した規律ある授業の雰囲気を作る。
- 2 基礎的知識・技術との関連性を図りながら、発見や気づきが生まれるようなスモールステップアップを意識した実習や体験学習を展開する。

IV 実践の成果と今後の課題

- 1 授業時の雰囲気作りはもちろんであるが、各種単元において「18歳成人」を意識した学習内容やコメントなどをちりばめ、社会人としての対応や規律を意識することができるよう工夫した。
社会生活に適応するにはまだまだ及ばないが、“まもなく成人する”という意識は定着したように感じる。今後も根気よく指導していきたい。
- 2 社会情勢上、例年のような実習や体験活動を積極的に取り入れることは難しかったが、少人数のグループ編成にしたり、個人で作業できる内容を取り入れたり、プリント交換で意見共有を図るなど新しい試みを取り入れた。それにより、様々な発見や多様な考え方に気づくことができた生徒もいたようである。しかし、事前学習への取り組みや円滑な人間関係の構築などに困難を示す生徒もおり、多くの生徒が達成感や成就感を得られるような題材・教材の精選など工夫が必要である。

令和2年度

校内研修記録

(情報科)

研究主題
(主テーマ)

生徒の主体的・協働的な学びを推進するための
魅力ある授業づくりの実践

教科テーマ

情報社会に対応できる技能と態度を育てる。

I 重点目標

- 1 情報の収集・加工・発信の能力の育成。
- 2 情報モラル・マナーなど情報を活用する態度の育成。

II 研修計画

- ・グループディスカッションや発表会を行うことにより、表現能力やコミュニケーション能力の向上を図る。
- ・実社会に即した事柄やデータを実習に取り入れながら、各種ソフトウェアの活用能力や情報の表現能力の向上を図る。

III 授業改善計画

- ・基本的なワープロソフトや表計算ソフトの活用のしかたをしっかりと身につけさせる。
- ・卒業後、必要となる情報・通信機器に関わる知識(重要用語)や技術(操作能力)やモラル・マナーをバランス良くかつ全範囲にわたって身につけさせる。
- ・調べ学習、課題作品の作成、発表会、相互評価等において、生徒同士が話し合うことや教え合うことを奨励し、より良い作品の作成・生き活きとした学習活動を目指す。

IV 実践の成果と今後の課題

- (成果)・各種ソフトウェアの活用を中心に指導してきた。TT授業や相互に生徒同士が教え合うことにより、知識とともにしっかりとした技能・技術の習得を図ることができたと実感している。
- (課題)・今後行われるプログラミング教育について、どのように指導していくか、指導内容や教材等をしっかりと吟味していきたい。

令和2年度

校内研修記録

(商業科)

研究主題
(主テーマ)

生徒の主体的・協働的な学びを推進するための魅力ある授業づくりの実践

教科テーマ

魅力的な授業づくりに向けた授業改善に取り組むとともに、キャリア教育を重視し、知識・技術を定着させ、自分で課題を見つけよりよく問題解決を図れる確かな学力を持った生徒を育成する。

I 重点目標

- 1 ペアやグループによる話し合いや発表等の授業方法を取り入れ、魅力ある授業づくりに努める。
- 2 経済社会や実務に即した基礎的・基本的なビジネスに関する知識・技術を習得させるとともに、より高度な資格取得の達成に努める。
- 3 地域と連携し、体験的な学習を進めることにより、社会に総合的に対応できる実践的能力を育てる。
- 4 授業を通じた規律指導を行い、経済社会の一員としての心構えやマナーを身につけさせる。

II 研修計画

- 1 魅力あるビジネス教育を展開するため、経済社会の動向や商業教育の新分野研究を目的とした各種講習会や研究会に積極的に参加し、より専門性を深める。
- 2 生徒の学力向上のために、科内で授業見学や研究会を行い、将来に活かせる知識・技術を育むような授業改善ならびに授業力向上に努める。
- 3 課題研究および理論型経済科目において、時事的問題を教材研究に生かし、生徒の学習への興味・関心を高めることができるよう努める。

III 授業改善計画

- ・問題演習で終わるのではなく、言葉の意味や取引の内容について生徒の反応を見ながら説明や発問をする。
- ・スキルの面は、繰り返し課題に臨ませて鍛錬し、基礎的技術を定着させる。一方で課題は段階的に、身につけた内容を発展的に活用できるように、また、実務で生かせるような設定の工夫をする。
- ・取り上げる教材をできる限り最新なものにし、また実際に即した教材を用いることで、生徒が解決しようという姿勢を持って取り組めるようにする。
- ・地域貢献活動について、3年生を中心に1・2年生も各種の事業に積極的に参加・協力する。

IV 実践の成果と今後の課題

- (成果)・コロナ渦ではあったが、よこてイースト秋フェスや種苗交換会において、各菓子店とともに考えたお菓子を販売することができた。また、12月には恒例の年賀状作成講習会を参加人数を8名に制限して実施し、地域の方々に喜ばれた。
- ・各種検定について、検定前の補習等を計画的に実施することができ、生徒らの資格取得に対する意識の高揚を図ることができ、合格率のアップを図ることができた。ただ、上級の資格である日商簿記検定の合格率が低かった。
- (課題)・今年度から全商簿記検定をやめ、日商簿記検定の資格取得に向けた学習を実施してきた。今後も上級の資格取得への意欲を喚起すると共に、放課後補習や外部講師による補講など強化していきたい。

1 目 的

教員が教科を超えて互いに授業を参観し、意見等を交換し合うことにより、さまざまな視点から課題・問題点等を見い出し、授業改善の方策を探る。そして、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるための魅力ある授業づくりを目指す。

2 期 日 令和2年9月7日（月）～9月17日（木）

3 対 象 全 職 員

4 実施方法

- ① 自教科と他教科の合わせて、2コマ以上の授業を参観する。
- ② 授業者に参観を申込み、日時・クラス等を決める。
- ③ 参観後は、下の「授業参観シート」に参考になった具体的な点や感想等を記入し、授業者に渡してください。
 なお、授業参観シートを企画研修部でまとめたいと思いますので、同じ授業参観シートを企画研修部にも提出のほどお願いします。

※ 「授業参観シート」はネットワークの共有フォルダにもありますのでご利用ください。
 入力後、次のようにファイル名の後ろに氏名をつけて保存していただければ、企画研修部への提出はいりません。

保存時のファイル名の例 「授業参観シート 氏名」

授業参観シート	
()月()日()校時()クラス 科目名()	
授業者() 参観者()	
参考になった点	
感想等	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 記入のしかたは自由です。 箇条書きでもOKです。 </div>

授業参観シート	
()月()日()校時()クラス 科目名()	

相互授業参観 まとめ

科目名	参考になった点	感想
C 英 I	<ul style="list-style-type: none"> ・板書ではポイント部分に黄色、赤色のチョークを効果的に使っていたのがよかった。 ・生徒が苦手な長い文を解説する時は、文を細分化して説明していたので、わかりやすかった。 ・内容理解を終えた後で、再度、クラス全体で Reading した点がよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書がきれいで、生徒はノートがとりやすかった。 ・予習プリントで新出単語等の意味を事前に調べさせていたので、授業の流れがスムーズだった。 ・眠くなる時間帯だったが、生徒は集中して取り組んでいた。
政治経済	<ul style="list-style-type: none"> ・板書で、色つきのチョークを効果的に使っていたのがよかった。 ・生産国民所得、国民所得支出、分配国民所得の説明では、言葉や文字だけではなく、図を描いて視覚で捉えさせていた点がよかった。 ・インフレーション・デフレーションと物価・通貨価値・景気の間関係を、クラス全体によく考えさせた上で生徒に回答させていた点がよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門用語を生徒にただ暗記させるのではなく、その内容についてクラス全体に考えさせ、生徒に回答させる流れが効果的だった。英語の授業にも活用できるので、模倣したい。 ・眠くなりがちなの午後の時間帯だったが、生徒はよく集中して取り組んでいた。居眠りする生徒がいなかったのは、日頃の指導が行き届いているからだと思う。
財務会計Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・みんな真面目にプリントの問題に向かっていた。 ・一つ一つ問題ごとに丁寧に解説されており、生徒もそれに耳を傾けていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・騒々しくする生徒もなく、落ち着いた雰囲気の中で淡々と授業が進んでいてうらやましかった。しつけが大切なんですね。
世界史 A	<ul style="list-style-type: none"> ・モニターやプリントを使用することによって、授業時間を有効に使っている。 ・頻繁に復習（振り返り）、既習事項の確認を行っていた。生徒はその時にすぐプリントをめくって探し出せていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備が大変そうで、参考にはなったものの自分には真似できそうもなかったと感じた。 ・時間を有効に使えるので、大学受験レベルの内容を丁寧に扱うことができている。
地理 B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味関心を惹くような発問がなされていた。 ・先生の指示がなくても、地図帳を開いて調べることに等していた。 ・ディスプレイを活用しての授業であり、プリントが画面に即したのようになっていて、生徒にとってはわかりやすいと思った。ディスプレイ画面が小さいので少人数には対応できるが、多くなると見にくいかもしれない。→プロジェクトで拡大する方法もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理に限らずいろいろな情報を得ることができ、生徒にとっても本当に興味関心のわくような授業だったと思います。デジタルで教材を作成することの有益さを十分に感じさせるものであり、真似をしてみたいと思いました。

<p>国語総合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをしつかりと書かせている。 ・黒板に授業の流れを図示し、全体の構成を可視化している。 ・グループ活動を取り入れることで、単調になりがちな文法事項に生徒の動きを持たせている。 ・生徒の動きが活発になると違うことをし始める生徒もいそうだったが、先生がうまく場をコントロールしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに、生徒が全員きれいにノートを書いていることに驚きました。自分の授業では、最近印刷したものを配ってばかりいたのですが、前時の復習でしっかりと生徒が答えているところを見て、自分の手で書かせることは大事なんだあと改めて感じました。グループ活動も2回にすることで、生徒を適度に刺激し、クラス全体が活気づいていました。 ・目標も達成することができ、授業の構成もすっきりとしていてとてもわかりやすく、参考になりました。
<p>現代文B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の段落構成やあらすじを理解させてから、各段落の内容に入っていること。 ・李徴とえんさん（変換で出なくてすみません・・・）の人物像に焦点を置いた授業 →今回の目標がここだったとしたら、生徒にもう少ししっかりと李徴やえんさんの人物像について考えさせ、生徒から答えを導く場面がほしいです。人物設定はとても大切です。 ・えんさんの「役割」について考えさせたところ ・基本的に生徒の力で答えを書かせたり、見つけさせようとしているところが、よかったです。 	<p>山月記は漢文調の文章が生徒には何度やっても読みにくく、主題である李徴の苦悩も年々生徒に伝わらなくなっているような気がしており、難しい教材だと思います。私自身が気をつけていることは、読みにくい文章だからこそ、音読を大事にすることです。黙読させるのは、ある程度物語世界に没頭させないと難しい。普段読書する習慣のない子も多いです。強制的に指名で読ませると、生徒もこの部分に答えがあるんだな、と理解してくれます。全てを生徒の力で、というのは厳しいところもあるので、例えばプリントで空欄補充にしてあげたり、読む範囲を狭く指定してあげるなどの支援も必要です。時間を指定するにはキッチンタイマーなど道具を使うのも有効で、メリハリがつけます。そして、道具を使うのはここぞと言うときが効果的です。すべての質問にではなく、授業の主となる発問の時に生徒にじっくり考えさせると良いと思います。</p>

令和2年度 平成高校 公開授業研究会 開催要項

- 1 研究テーマ 思考力・判断力・表現力を高めるための授業づくり

一斉授業に終始するのではなく、じっくり考えたり、話し合ったり、内容を整理しまとめて発表するなど、「深い学び、対話的な学び、主体的な学び」を実現できるような学習活動の工夫を図る。

- 2 実施教科 数学、地歴公民、保健体育

- 3 期 日 令和2年11月10日（火）

- 4 日 程 14:00～14:20 受付
14:30～15:20 公開研究授業
15:50～16:30 授業研究協議会

- 5 授業一覧 (14:30～15:20)

教科	科目	単元	学年・学科	会場	授業者
数 学	数学 I	データの分析	1年2組 (普通科)	1-2教室 (3階)	浅野 亘
地 歴 公 民	地理 B	環境問題	2年普通科 選 択	1階学習室 (1階)	沼倉 徹
保 健 体 育	保 健	心身の相関と ストレス	1年3組 (総ビ科)	1-3教室 (3階)	佐藤 浩樹

- 6 研究協議会 (15:50～16:30)

教科	会場	司会者	記録者
数 学 科	簿記多目的室	土田 哲也	三浦 史聖
地歴公民科	会 議 室	津川威智夫	高橋 涉
保健体育科	保育実習室	伊藤 泰	佐藤 悠也

・次のような観点で研究協議を行います。

- ① 授業全般について
- ② 教師の働きかけについて
- ③ 生徒の学習活動について
- ④ 評価・その他について

- 7 諸 注 意

- ①当日は職員玄関で受付を行い、開始10分前まで各会場へおいでください。
- ②授業研究協議会に参加できない方は、授業に関する意見・感想等を記入した用紙を受付に提出してください。
- ③感染症対策
 - ・発熱等がある場合は、参加をご辞退していただくようお願いいたします。
 - ・受付にて健康確認及び消毒等への協力をお願いいたします。
 - ・校内ではマスクの着用をお願いいたします。

授業参観・研究協議会の実施について

1 授業参観について

- ・授業を参観しながら、次の①～④のポイントについて気づいたことを下のワークシートに記入してください。

なお、このワークシートは研究協議会が終わった後、集めさせていただきますので、よろしくお願ひします。

- ①**授業全般**について（思考力・判断力・表現力を高める工夫等がされているか）
- ②**教師の働きかけ**について（発問の取り上げ方と発展の工夫、指示の工夫がされているか）
- ③**生徒の学習活動**について（授業に対する姿勢、意欲的に学習活動に参加しているか）
- ④**評価**について（意欲を引き出す評価をしているか、観点・方法の工夫がされているか）
- ⑤**その他**

	①授業全般	②教師の働きかけ	③生徒の学習活動	④評価	その他
プラスの面					
マイナスの面					
改善点・提案					

- ・**プラスの面**…………… 良かった点、感心させられた点、学んだ点 等
- ・**マイナスの面**…………… 改善が必要な点、気になった点、今後の課題となる点 等
- ・**改善点・提案**…………… どのようにすれば良いか、改善方法 等

2 研究協議会について

- I 授業者から、本時の授業等について説明してもらいます。
- II ①～④ごとにプラスの面とマイナスの面を出していただきます。
- III 最後に、全員で共有したい成果や課題について協議をし、より効果的な授業を展開するために、どのようなことを心がければ良いか等、今後に向けた改善策・提案・提言を検討していただきます。

数学科（数学 I）学習指導案

日 時 : 令和2年11月10日(火) 6校時
 場 所 : 普通科 1年2組
 対象生徒 : 1年2組教室
 使用教科書 : 最新数学 I (数研出版)
 授業者 : 浅野 亘

1 単元名 第5章 データの分析 相関係数

2 単元の目標

- (1) 分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその使い方を理解し、その基本的な統計量を求めることができる。
- (2) 目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現すること。

3 単元観

統計の内容はデータサイエンスの一端を担っており、様々な分野で今後さらに注目されていく分野である。相関係数を算出することで客観的に相関の有無を見ることができただけでなく、因果関係との違いやその背景にある関係性についても目を向けたい。正解を求めるという形ではなく、データやそこから生じる疑問点を踏まえて新たな課題を設定し、問いを深めていく経験をしてもらいたい。

4 生徒観

男子15人、女子20人の合計35人の普通科クラスである。進路希望に関しては、四年制大学から就職まで多様である。数学の授業においては、発言が特別多いというわけではないが、真剣に話を聞いたり互いに教えあいながら学習に取り組んだりする姿もあり、授業態度はまじめである。

5 単元の指導計画（7時間）

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. データの整理・・・1時間 | 2. データの代表値・・・1時間 |
| 3. データの散らばり・・・2時間 | 4. 四分位範囲・・・1時間 |
| 5. データの相関・・・1時間 | 6. 相関係数・・・1時間（本時） |

6 評価規準

A 関心・意欲・態度	B 数学的な見方・考え方	C 数学的な技能	D 知識・理解
相関係数を求める中で、その特性や法則性を調べようとする。	散布図や相関係数から2つの変数の間の相関関係を分析し、因果関係を含めどのような関係性にあるのか考え説明することができる。	相関係数を正しく求めることができる。	散布図および相関係数、因果関係の意味を理解している。また、相関係数の求め方を理解している。

7 本時の計画

(1) 本時の目標

相関関係と因果関係の違いを理解し、相関の背景を自分なりに考え説明することができる。

(2) 展 開

	学習活動	指導上の留意点	評 価
導 入 5分	授業内容の概要を確認する。	・興味を引き、疑問を生じさせるように具体例を提示する。	
展 開 35分	<p>本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">2種類のデータの間にはどのような関係性・背景があるのか考え説明しよう。</div> <p>散布図、相関、相関係数について学ぶ。</p> <p>具体的な事例について相関係数を求め、相関の有無を調べる。</p> <p>因果関係の意味と、相関関係との違いについて学ぶ。</p> <p>相関を調べた事例について、因果関係の有無やその背景にある関係性について考え、グループで話し合う。 【個人】→【グループ】</p> <p>話し合った内容を発表する。</p>	<p>・確認自体は簡潔にし、いつでも見られるようにする。</p> <p>・計算の際は電卓を使用する。</p> <p>・混同しやすい内容なので、具体例を示しながら説明する。</p> <p>・正解を求めようとせず、様々な意見を出すよう促す。</p> <p>・疑問点やそれを解決するために何を調べればよいかも考え記入するよう指示する。</p> <p>・ほかのグループの内容でよいと思ったことをメモするように指示する。</p>	<p>2変量間にある関係性について自分なりの考えを持ち、説明することができる。(B) 【ワークシート、観察】</p>
まとめ 10分	<p>本時のまとめをする。</p> <p>振り返りシートに記入する。</p>	<p>・善悪様々な場面に応用されていること、実際の分析方法としては他にも多くの種類があることに触れ、関心を高める。</p> <p>・感想だけでなく、疑問に思ったこと等も記入するよう指示する。</p>	

地理歴史・公民科(地理B) 学習指導案

日 時：令和 2年11月10日(火) 6校時
実施教室：学習室3(1階)
対象生徒：2年1・2組 地理選択者14名(男子6名・女子8名)
教科書：新詳地理B(帝国書院)・新詳高等地図(帝国書院)
副教材：三訂版 最新地理図表 GEO(第一学習社)
データブック・オブ・ザ・ワールド2020(二宮書店)
授業者：沼倉 徹

1. 単元名

第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境 4節 環境問題

2. 単元の目標

世界の環境問題について、その背景や原因・影響・対策を多面的に考察する。

3. 単元と生徒

本単元では、世界各地で発生している環境問題の仕組みについて学習する。それぞれの環境問題の特徴や解決方法に関する学びを深めていくが、理論だけではなく、人間生活の関わりに対して目を向けさせたい。

2年1・2組 地理選択者14名は、快活で積極的に授業に参加する生徒たちである。反面、地理的知識や思考力がまだ身についておらず、発問への受け答えに時間を要することも多い。しかし、これまで授業を通して興味・関心は高まっており、知識が乏しいながらも互いに教え合う姿が見られるようになってきた。

未知の事象について考察し、学び合いの中で自分の意見を主張する姿勢を育ませたい。

4. 指導と評価の計画

単元の指導計画

1. 世界の環境問題・・・・・・・・・・1時間
2. さまざまな環境問題・・・・・・・・・・3時間
3. 環境問題への国際的な取り組み・・・・・・・・4時間(本時3/4時間)
4. 日本の環境問題・・・・・・・・・・2時間

単元の評価基準

	ア. 関心・意欲・態度	イ. 思考・判断・表現	ウ. 資料活用の技能	エ. 知識・理解
評価の観点	世界と日本の環境問題の原因・影響・対策に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、捉えようとしている。	世界と日本の環境問題の原因・影響・対策について、特徴や地域的分布、今後の課題などを適切に表現出来る。	世界と日本の環境問題に関する諸資料から、有用な情報を的確に選択し、状況変化の推移や地域差を読み取ることが出来る。	世界と日本の環境問題の原因・影響・対策などを理解し、その知識を身に付けている。

5. 本時の計画

(1) 本時のねらい

『SDGs』の概要と必要性を理解し、現代世界が抱える問題を『私事』として捉えることが出来るようになる。

(2) 展 開

段 階	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導 入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> *政治・経済に関する国際機関の名称や、アルファベットの略称を確認する。 *『SDGs』が様々な国際問題の解決につながることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> *確認事項の着眼点を明確にし、本時の展開へとつながる発問をする。 	
	<p>本時の目標 『SDGs』の概要と必要性を理解し、 現代世界が抱える問題を『私事』として捉えることが出来るようになる。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> *目標を確認し、プリントに記入する。 		
展 開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> *資料を用いて『SDGs』の概要と必要性を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> *既習の内容と本時の内容との関連性を明確にし、思考の手助けとする。 	
	<p>課題Ⅰ なぜ『SDGs』が必要なのか</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> *資料を用いて『SDGs』の項目を分類する。 	<ul style="list-style-type: none"> *PowerPointを活用して、資料の着眼点を明確にし、生徒が得る情報量に差異が生じないように配慮する。 	
	<p>課題Ⅱ 『SDGs』は どのような項目で構成されているのか</p>	<ul style="list-style-type: none"> *後の考察の切り口となるヒントを暗示し、気づきを促す。 	
	<ul style="list-style-type: none"> *『SDGs』と自分たちの生活との関わりについて考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> *机間巡視をしながら、作業の様子を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> *自分の意見を積極的にクラス内で交わすことが出来たか(ア) 【プリント】 【観察】
<p>課題Ⅲ 『SDGs』と自分たちの生活は どのように結びついているのか</p>	<ul style="list-style-type: none"> *作業の過程で「生徒同士で 教え合う・学び合う」ことを促す。 		
ま と め (5分)	<ul style="list-style-type: none"> *既習の内容・本時の内容を振り返り、今後の学びと結びつける。 	<ul style="list-style-type: none"> *クラス全員で学習内容の共有が図ることが出来るように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> *本時の内容を、キーワードを使用して文章にまとめることが出来たか(イ) 【プリント】

6. 目指す生徒の姿

この授業を通して、世界が抱える諸課題と我々の生活が、『日常的につながっている』ことを学ばせたい。生活に豊かさを求めるためには、各国・各個人が果たすべき責任があることを理解出来るようにしたい。

保健体育科（保健）学習指導案

日 時 令和2年11月10日（火）6校時
 実施場所 1年3組HR
 対象生徒 1年3組（35名）
 教科書 現代高等保健体育（大修館）
 副教材 現代高等保健体育ノート（大修館）
 授業者 佐藤 浩樹

1 単元名 現代社会と健康「16. 心身の相関とストレス」

2 単元の目標

人間の欲求と適応機制には、様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があることを理解する。また、精神の健康を保持増進するには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であることに気づかせる。

3 単元と生徒

男子20名、女子15名のクラスで、説明や発問に対して積極的に反応する生徒が多い。
 本時の内容に関して、人間が生きていく上でストレスを感じることは自然なことであり、適度なストレスは精神発達上必要なものであるが、過度のストレスは心身に好ましくない影響をもたらすことがあることを、自分の生活経験を振り返ったり、今後活かそうとする姿勢が期待できる。

4 単元の指導計画

1. 欲求と適応機制・・・1時間
2. 心身の相関とストレス・・・1時間（本時）
3. ストレスへの対処・・・1時間
4. 心の健康と自己実現・・・1時間

5 単元の評価基準

ア. 関心・意欲・態度	イ. 思考・判断	ウ. 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 欲求と適応機制、心身の相関について資料を見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ・ ストレスへの対処、自己実現について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欲求と適応機制、心身の相関について、資料等で調べたことを基に、自分の考えを導き出してそれらを説明している。 ・ ストレスへの対処、自己実現について学習したことを、個人及び社会生活や事例と比較、分析、評価などを行ったり、それらを説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間の欲求と適応機制には、様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進するには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であることについて、理解したことを発現したり、記述したりしている。

6 本時の計画

(1) 本時のねらい

人間の精神と身体は密接な関連をもっていることを、(身体的変化が精神に及ぼす影響と精神的変化が身体に及ぼす影響との両面から)理解できるようになる。

(2) 展 開

段 階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
導 入 (10分)	○あいさつ 出欠確認 ○5・6人のグループをつくり、心と体の関係をあらわす言葉(身体の様子で心の状態を示す言葉)を考え、挙げる。	○私たちが普段何気なく使っている言葉の中に心身相関をあらわす表現があることに気付かせる。 例：喜び→心が躍る など	話し合いへの参加態度 (机間観察)
展 開 (30分)	○日常生活にみる心と体の関係を考える。 (グループで話し合い、何人か発表する) ・体から心へ ・心から体へ ○ストレスとその原因(ストレッサー)について ・自分のストレス状態とストレッサーの確認 ・ストレッサーの種類 ○ストレスの受け止め方について ○ストレスと精神疾患 ・主な精神疾患を挙げる。 ・PTSDについての理解する。	○例を挙げて心の状態や変化が体にあらわれる場合や体の変化が心に反映することがあることを説明する。 ※「病は気から」「気は病から」 ○教科書p.44のストレスチェックを行い、結果より自分のストレス状態に気付かせる。また、自分のストレスの原因は何かを確認させる。ストレッサーを分類する。 ○ストレスの受け止め方や感じ方については個人差がある。 例：カラオケ好きな人と嫌いな人の話。 ○代表的な精神疾患について考えさせる。 ・PTSDの説明	話し合いへの参加態度 (机間観察) 思考・発現
ま と め (10分)	○日常生活とストレスについて ・適度なストレスと過度のストレスについて ・心と体の関係についての確認	○適度なストレスは、人間の成長を促す一面があることから、適度なストレスとうまく付き合い、過度なストレスに対処していくことが重要であることを理解させ、改めて「心と体の相関性」を理解させる。	観 察

I 授業者より本時の授業について

分野「データの分析」の相関を本授業では行った。新カリキュラムでは統計分野に重点を置いていくことになるということ、また個人的にもデータサイエンスに興味があることもあり、この内容を選んだ。データの分析については、計算した数値（代表値）に対してどのような解釈をするか、それをどう活かしていくかということが重要になってくる。生徒が物事を捉えるときに数字を通して客観的に見る力を養って欲している。

本授業にあたっては、パソコンの画面を拡大して、モニターに映し授業を行ったこと、相関係数を授業内容として扱うこと等初めて行うことが多かった。また、数学的な相関係数を求めることに重点を置かずに、因果関係を考えることに重点を置いた。

II 授業を参観して

① 授業全般

- (+) 生徒をよく惹きつけている。また、生徒のペースに合わせた授業展開であった。
スマホアプリの活用。
目標の確認の仕方（聞く、視る、書く）
- (-) 黒板とスクリーンの使い分けをもっと工夫した方がよい。
正負の相関についての説明をもう少し詳しくするとよい。

② 教師の働きかけ

- (+) 生徒に寄り添った話しかけで生徒の気持ちを惹きつけていた。
因果関係の導入部分の題材が考えやすいものであった。
- (-) 各生徒が問題把握をするまでに具体例を複数出してもよかった。
事前準備の相関図や相関係数の説明がやや一方的であると感じた。

③ 生徒の学習活動

- (+) グループ活動には慣れており、活発に動いていた。
学びあう場面が多く見られた。
- (-) 生徒がグループでの意見を発表する場面がもっとあってもよかった。

④ 評価

- (+) 振り返りシートの活用。振り返りシートの内容もよかった。
- (-) プリント回収による評価はよいが、授業内での評価は難しい。

III 共有したい成果や課題、今後に向けた改善策・提案・提言

- ・一つの正解を生徒が答える問題ではなく、自分の考えを述べることができる問題設定。（本授業では、良かった点である。）
- ・興味や予想を引き出す導入についての入り方の工夫。（本授業で良かった点であるが、そこからの生徒の動かし方を改善しても良かった。）
- ・グループ学習の人数設定や「調べる・計算する・結果等を予想する」といった学習活動に見合った時間設定、黒板とスクリーンの併用の仕方については共有すべき課題。
- ・モニター、スクリーンに映したときの適切な文字・表・図の大きさの検討。

I 授業者より本時の授業について

- ・中身としては楽しくできる内容を選んだ。が、一番やりたかったところまでできなかった。
- ・「頭の中をアクティブにする」ために「なぜそうなるんだ？」を頻繁に問いに出している。
- ・パワーポイントの授業スタイルには4月よりやっている所以で生徒も慣れている。
- ・あえてグループを作らずに、普段の並びで教え合いながらできるようにしてみた。
- ・生徒は自ら、以前のプリントを出して答えを探してくれる。
- ・自分の思っている以上に時間がかかった部分もあり、時間の読みを違えた部分もある。

II 授業を参観して

- ・パワーポイントを活用した板書の時間の短縮はいいなあと。ただ、生徒が書く時間がかかっている。目標を生徒に書かせるというのもいい。自分で書けば自覚が出ると思う。全体的に遊び心が旺盛で、最初の部分も時間がかかったけどよかった。生徒が略称の英単語を調べるのも思った以上に時間がかかっている。互いに会話しながら進んでいくのも良かった。
- ・SDGsは3年部での小論などでも与えられる課題でもあって、自分でもよく分からなくてどうやって指導してよいか悩んでいる部分。進路にも繋がってくるんだなとおもった。英単語が結構出てきて、生徒方が意外に知らないなど。実はやっている単語もあるのだが、忘れてしまっている。教科横断的な授業というのもおもしろいかなと思った。英単語で企業の略称をやっておいて、そのあと地理へとか。ピクトグラムも異訳されている部分もあるので、ある程度を生徒に与えておいて、生徒に書かせるのもあるのかな？と。ただ、読めなくても、ジェンダーのところもマークからなんとなく分かる部分もあるのでそのようなところをやってから、他の部分というのもいいかと。
- ・生徒が自分で活動し、考える部分があり、授業に参加しているという実感があり、参考にしたい。生徒がプリントに記入するのを確認してから次にというサイクルを参考にしたい。発問も一問一答ではなかったので参考にしたい。
- ・パワーポイントで資料もカラーで大画面で共有できるので参考にできる。ピクトグラムの英語を自分で訳して書くというの面白かった。16のテーマは多すぎる気もするのですが、自分の授業で導入の部分で使ってみるのもいいのかな？と思った。
- ・9月に先生の3年生の地理Aを参観した。ICT機器・パワーポイント活用が今風でいいなと思った。10コマ中の7コマ目ということで次のコマも見ると流れも分かるかなと。

- ・自分も、グループを作るとやる人とやらない人が出るので、近くの人と相談するようにしている。略称が出た場合、確認をするようにしている。そうすれば生徒の記憶に残ると思っている。「私事」というのはプライベートなことというのでちょっと違うような気がした。公の事に自分が取り組むというのにあてはめるのはちょっと違うのでは？

Ⅲ 質疑応答

Q：教科書にSDGsはあるのか？

A：実は無い。資料集の端っこのほうにある。

Q：タブレットがきたら授業でどう活用していくのか？

A：タブレット上に生徒が書けるので、生徒が書いた物を大画面に出して共有してあげると思う。地図も画面上に出せる。

Q：1時間分のパワーポイントの内容を作るのにどのくらいかかるのか？

A：まともにやると2～3時間。でも繰り返し使えるし他のクラスに行っても同じ事を書かなくてよい。

Q：去年から授業の内容を生徒にあわせるのに苦心している。教科書通りやる必要は無いのかな？と。教科書にある部分を扱って、「わかった」という実感をもたせていると今度はテストが作りにくくなる。どうしている？

A：単元が終わるごとにテストをしているので、生徒はこの部分を勉強するんだなと自然にわかってくる。

I 授業者より本時の授業について

全体的に生徒の積極的な発言に助けられた部分も多くあり、心と体の関係についてしっかりと理解させることができた。導入から展開につながる流れが少し曖昧であったこと、発表者の答えてくれるスピードが速かったため、起立を指示してからの発表に至らなかったのが反省点である。また、体の変化について生徒に考えてもらった部分を板書しても良かったこと、まとめの部分で少し慌ててしまったこともあった為、今後の授業に活かしていきたい。

II 授業を参観して

① 授業全般

- ・生徒たちがグループワークにためらいがなく、活動がスムーズで、生徒たちの活発性が生きる授業であった。
- ・生徒との信頼関係が十分であるため、自由に発言できる雰囲気作りがされていた。
- ・全体の流れがわかりやすく、発問の内容が的確だったため、つながりが持てるわかりやすい授業であった。
- ・意見の出しやすいように働きかけがされており、生徒たちが楽しそうに授業に取り組んでいた。

② 教師の働きかけ

- ・発問の答えが端的であった為、起立を求める必要もなく、スムーズに授業が進行していた。本時の目標の書く位置を提示してあげた方がノートを取る際に良かったのではないか。
- ・目標を達成する手立てが明確であった。
- ・生徒主体の活動が多く、意見がよく出るよう働きかけがされていた。
- ・グループで考える際に時間の指定などがあれば、良かったのではないか。

③ 生徒の学習活動

- ・授業に向き合っている姿勢が非常に良かった。
- ・グループ活動の際に、参加できていない生徒がおらず、全員が自分の意見を持って、活動に参加できていた。
- ・ノートやプリントも、教師からの指示を待つのではなく、自分たちでしっかりとまとめられていた。
- ・ストレス Check で数値化することで生徒がよりわかりやすくなっていたのではないか。

④ 評価

- ・ストレス Check という形で生徒が自らのことを数値で知ることができ、その結果を教科書で振り返ることができていたことが良かった。
- ・最後に授業内容を自分の言葉でまとめる時間を取ると良かったのではないかな。

Ⅲ 共有したい成果や課題、今後に向けた改善策・提案・提言

- ・PTSDとトラウマの違いを説明することで生徒もその違いを良く理解できるのではないかな。
- ・「心理・社会的」を精神的と一つにまとめてしまうと混乱する場合もあるので、分けた方が良かったのではないかな。
- ・ストレスがない世界がどういうものか想像させることでストレスについて深い学びにつながるのではないかな。
- ・心と体の関係を表す言葉では、決まった言葉が入る場合もあった為、一応正解があることを生徒に提示した方が良かったのではないかな。
- ・事前に生徒の実態を把握することが大切である。

参加者 7名

2 校外研修

令和2年度 教職5年研修講座（高等学校）を終えて

数学科 三浦史聖

【研修内容】

学校組織マネジメントの意識を高め、学習指導や学年経営、生徒指導等についての実践的指導力の向上を図る。

6月12日(金)

- | | |
|------------------------|-----------|
| ○教育相談と人間関係づくり | …生徒指導力 |
| ○学校組織の一員として－マネジメントの視点－ | …マネジメント能力 |
| ○生徒の実態を踏まえた授業改善① | …教科等指導力 |

9月8日(火)

- | | |
|------------------|---------|
| ○発達障害のある生徒の理解と支援 | …生徒指導力 |
| ○生徒の実態を踏まえた授業改善② | …教科等指導力 |

【はじめに】

今年度、5年経験者研修という節目の研修を受講する機会をいただいた。2回実施されただけであるが、普段の生活の中で忘れていたこと等も再認識することが多く、有意義であった。

【一般研修】

初任より5年同じ高校に勤務しているが、目の前の生徒について考えることばかりであり、今後出会う可能性がある生徒の特徴、特性について学ぶ機会をなかなか得ることが出来ていなかったため、今回は大変有意義であった。特に、特別支援教育の現状等に関する内容を始めとして、発達障害のある生徒の理解と支援について学んだことが印象的であった。

現状としては全国的に年々、子どもの人数が減少している中において、特別支援を必要とする子どもの人数は増加傾向にある。そして、その生徒の約75%が高校へ進学しているという状況にある。本県においても同様の傾向が見られ、特別支援学校のみならず他の校種において、発達障害の傾向のある生徒や特別の支援が必要な生徒への対応が求められる状況におかれている。特別な支援が必要な生徒は多種多様であるが、バランスのとれた文字が書けない、教科書の文章を読めるが意味を理解出来ない、コミュニケーションが苦手、暗黙のルールが分からない等、具体例を挙げて説明を受けることにイメージを持つことができた。また、その中で特に学習障害を持つ人の文字や数字の見え方を表しているとされる図や写真等を見ることが出来たが、私が見ている世界とはまったく異なる世界が見えているのであると衝撃を受けた。生徒を指導、理解していく上においては各個々人に応じてということが基本となるが、生徒個人が抱える課題、取り巻く環境、そして、これまでの経験等を把握し、その上で本人主体の支援が行われていくことの重要性を再認識することができた。

また、学校の教育においては、授業が最も基本となるわけであるが、授業の進め方も振り返る良い機会となった。高校の数学の授業においては、扱う内容量の多さの為、生徒が説明

を聞きながら板書をノートに書き取るということが行われているが、支援を必要とする生徒や、数学が苦手な生徒に対して授業を行う為には、説明を聞く時間とノートに必要なことを書き取る時間を分ける必要性を強く感じた。今までの板書一辺倒の授業方法では時間的にも限界がある。来年度に行われる ICT 環境を有効に活用した授業方法の構築を課題とし、今後も多くのことを学び、研鑽を積んでいきたい。

[授業研修]

生徒の実態を踏まえた授業改善をテーマに行われた教科による授業研修であった。自らの授業を振り返ることももちろんであるが、授業をしている相手である生徒について考える良い機会となった。数学の授業においては、日常生活や社会で資質・能力を活用、発揮できるようにするため、数学的活動を行い進めていくわけであるが、数学の内容が進めば進むにつれて、基礎的内容が習得された上での話となってくる。また、グループ学習をするにしても、人間関係も若干は考慮しなければならない。それらを把握しておかなければ、よい授業の空気というもの生まれにくい。

学校においては、一般的には講義型が主流ではあるが、わからない生徒に対して教師が同じ説明をもう一度する。効果的な場合もあるが、それよりも生徒同士が互いに学び合うことでわからない生徒が理解することが多いような気がする。このときの教師の役割は何なのであろうか。学び合いの時間をつくることも重要ではあるが、それ以上に、クラスの分かっている生徒と分からない生徒をつなぐことが教師の役割なのであろう。例えば、分かっている生徒に対しては、自分が分かったときのポイントを明確にさせ、分かっていない生徒にはどこに着目すればよさそうであるのかを考えさせる。それらを最後につなぐことが教師の役割なのであろう。

また、数学は答えを求めることが確かに重要であり、テストではその正しい答えの数で点数付けがされる。しかし、数学の授業において大事であることは、正しい答えを求める事だけではないと私は考える。もし、それだけを求めるのであれば、特に数学が苦手な生徒は何も発言することが出来なくなってしまうであろう。数学の授業において重要であること、最も身につけるべきことは数学的な見方・考え方なのであろう。形式的な作業に止まらない計算や解答、自分が解いている数式の意味の理解、自分の学んでいることのイメージ等は、授業で身につけて欲しいことである。このようにして考えると、この数学を通して学ぶことは大局的には科目の内容そのものというよりは、内容を通して気づきを学ぶことではないかと考える。この気づきは、社会に出たときに、言葉の使い方、道具の使い方、人との接し方において強力な武器となるのではないであろうか。

[おわりに]

今後も学校業務や教育活動を通して、数多くのことを学んでいきたい。

この研修で御指導・御協力くださった方々に感謝を申しあげたい。また、同期の先生方が健康でいられることを切に願う。

令和2年度実践的指導力向上研修講座（高等学校8年目）を終えて

国語科 渡部 陽子

1 はじめに

今年度、採用から8年経過となり、実践的指導力向上講座を受講する機会をいただいた。フェイスシールドや手袋を着用するなど、感染症防止対策を徹底した中での開催となった。実施講座の概要と感想を以下に記し、報告とする。

2 期日・場所

〔Ⅰ期〕令和2年6月24日（水） 〔Ⅱ期〕令和2年9月7日（月）

秋田県総合教育センター

3 概要

対象：採用8年目で今年度高等学校に所属する教諭

目標：自己理解に基づき、個々の個性・適性、分掌等に応じた資質能力の向上を図る。

4 研修内容

Ⅰ期 〈講義・演習〉不登校の未然防止と対応

〈講義・演習〉学校組織の一員として－自己理解に基づく目標設定－

〈講義・演習〉カリキュラム・マネジメント

「不登校の未然防止と対応」では、不登校の兆候を早期発見し、初期対応、再登校支援までの指導方法について学んだ。県内各高校でも不登校対応は行われているが、どのような場合でも、担任だけでなく、チームで対応すること、時期に合わせた対応が必要である。

組織マネジメント、カリキュラム・マネジメントの講義では、組織における役割や責任を理解した上で、PDCAサイクルを実施することの重要性について講話を聞き、演習をした。学校組織の一員であることを自覚し、採用8年という経験を活かしながら、組織内の自分の役割を理解したうえでの行動が求められていると強く感じた。

Ⅱ期 〈協議・演習〉授業評価による継続的な授業改善

3名の先生の授業をDVDで視聴し、それぞれ付箋紙を用いた協議を行った。他教科の授業ではあったが、各校で様々な工夫を凝らし、魅力的な授業作りをしていることがわかり、刺激になった。自分の授業も協議していただき、多くの参考になる意見をいただいた。国語の授業は1名の授業を視聴したが、整然としたプリントや授業の構成は見倣いたいものばかりだった。ICT機器の活用については、国語科ではあまり使用される事例が多くはないが、これからは有効に活用できる手段を検討すると共に、授業展開を工夫していくことが求められる。様々な手立てを講じながら、生徒に資質・能力を身につけさせ、主体的な学びを手段としながら、横断的な深い学びに導くための授業改善を今後も続けていきたい。

平成高等学校 国語科（現代文B）学習指導案

日 時：令和2年7月7日（火）2校時

使用教科書：標準現代文B（第一学習社）

1 単元名 新しい視点

2 教材名 「物語を発現する力」 佐藤雅彦

3 単元の見どころ

(1) 説明的文章の基礎的な読解力を身につける。(読む能力)

(2) 筆者の主張を参考にしながら、日常生活で起こる関連事柄について考えを深める。(関心・意欲・態度)

4 生徒の実態

総合ビジネス科（男子19名、女子12名、合計31名）のクラス。現代文Bは2年次に2単位、3年次は4単位で教科書の内容と併せて、就職試験や推薦入試に対応できるような文章作成能力や語彙力の向上を目指す。前教材では、論理展開の構成と、キーワードを手がかりとした筆者の主張の読み取り、要約のしかたを学習した。身近に起こりうる事柄を話題とした論理的文章を読むことで、生徒が自身の体験を問い直し、自らの思考をメタ認知的な視点から捉えられるようになることをねらいとして、学習していく。

5 本時の計画

(1) 本時の目標 筆者の主張について生徒自身に実感的に理解させ、より深い読解に導く。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (5分)	・筆者の紹介	・佐藤雅彦について簡単に紹介をする。	
〔本時の目標〕 筆者の問題意識を理解し、「物語を発現する力」を体験してみよう。			
展開 (40分)	・本文を通読する。(10分)	・生徒を指名し、形式段落ごとに読ませる。漢字など適宜読み方の指導する。	・キーワードを捉え、筆者の問題意識を理解することが出来ているか（読む能力） 【評価方法】
	・キーワードを確認する。 (5分)	・「物語」「創造」「能力」などを挙げさせ、主題を捉えさせる。 ・筆者の問題意識を本文から確認させる。	
〔発問〕 本文中の図について、自分なりに解釈してみよう。			
	・各自でプリントに五コマ漫画の解釈を書く。(15分)	・本文の解釈以外の発想を促す。 ・机間指導をしながら全体の発表者を検討する。 ・三密状態を回避するため、対面ではなくプリントを交換するように指示する。 ・残りの時間に合わせて指名する。	シート、発表 ・五コマ漫画に対して、ストーリーを作ることができるか。(関心・意欲・態度) 【評価方法】 ワークシート
まとめ (5分)	・活動を振り返り、本文との関連性を理解する。	・生徒の意見をまとめ、本文との関連性を説明する。 ・次回の授業予告をする。	

高等学校新任学年主任研修講座に参加して

1年部主任 高橋 智也

はじめに

本校に転勤して来た本年度、教員生活で初めての学年主任を担当することになり、高等学校新任学年主任研修講座を受講する機会を得た。本来の計画では2回実施される計画であったが、新型コロナウイルス感染予防のため1回の研修講座にまとめられ実施された。

以下、研修の概要を報告する。

期日・場所

令和2年6月25日（木） 秋田県総合教育センター

対象

高等学校新任学年主任33名

内容・感想

講義

「望まれる学年主任像と学年主任の役割」

秋田県総合教育センター スーパーアドバイザー 石黒 みどり 氏

校長経験のある講師の先生から、管理職の立場から学校組織の中で学年主任の位置づけや、期待する役割などについてお話があった。また各校の出席者から、事例などの発表もあり、様々な取り組みに触れることができ、これから起こりうる事例の参考になると思った。

講義・演習

「学年経営と組織マネジメントの基礎」

秋田県総合教育センター 主任指導主事 羽深 康之 氏

講師の先生が学年主任であったときの事例や失敗例などの話を織り交ぜ、組織マネジメントについてお話があった。失敗例などの紹介で、気負いの気持ちが緩和された。学校経営の一躍を担っていることの自覚を持って取り組むことが大事であると気づかされた。

講話

「思春期の揺れと成長を共に歩む」

秋田赤十字病院心療センター 臨床心理士 丸山 真理子 氏

スクールカウンセラーとしての事例などを元に問題を抱えている生徒の対応や、表面に現れないが、心配りが必要な生徒の心の動きについてお話があり、よく生徒の様子を確認し、早めに生徒の気持ちの変化を発見することや、それに対応することの大切さを学ぶことができた。また生徒だけでなく、仲間の教員への心配りの大切さも学ぶことができた。

おわりに

今回の研修を通し、学年主任としてリーダーシップを発揮するためには、学年部の職員と生徒、それぞれとの信頼関係を築く必要があり、相手の状況をくみ取るカウンセリング能力と組織マネジメント力を高めることが必要であることを再確認した。研修で学んだことを心に刻み、各先生方から謙虚な気持ちで協力をいただき、担当する生徒たちが卒業するまで、しっかりと学年経営に取り組む決意を高めた。

編集後記

各教科において、研究主題（テーマ）を設定していただき、相互授業参観や校内授業研究会において活発に活動しました。ただ、コロナウイルス感染防止のため校外での研修が軒並み中止や延期になりました。また各種の協議会や研修・講習会、他校の研究授業に参加する先生方も少なく、とても残念な一年でした。今後とも教職員にとってより良い研修が行われるよう励んでいきたいと思えます。なお、この研修集録を見ての御意見・御感想等、何なりとお寄せください。

令和2年度 研 修 集 録

発 行 令和 3年 3月10日

編 集 秋田県立平成高等学校

T E L 0182-24-1195

F A X 0182-56-3008

<http://www.heisei-h.akita-pref.ed.jp/wp/>